

語り部・伝える活動

復興みなさん会、一般社団法人 東北圏地域づくりコンソーシアム

南三陸で生まれ育ち、被災で体験した復興みなさん会のメンバーが、ふるさとである南三陸の状況や、復興への想いを自分の言葉で語り、多くの人に伝えてきた。

概要

被災者として、被災地南三陸の状況や、復興に向けたあゆみを伝える活動を、継続的に行っている。

日本全国・世界中から来る観光客への、語り部活動



様々な分野の専門家や研究者への、現地案内・情報提供



被災していない地域に向いての講演・紙芝居の実施



実績

集計をとった2012年8月～2014年2月の伝える活動の実績は、下記の通り。のべ519回、19,917名の方に伝える活動を実施した。

		実施回数	対象人数
町内	語り部活動	389	12,869
	講演(町内)	28	1,384
	かみしばい(町内)	18	647
	取材対応	41	108
町外	講演(町外)	36	4,282
	かみしばい(町外)	7	627
伝える活動(2012.8～2013.12)		519回	19,917名

語り部

バスに乗り、実際に被災した現場を見て頂きながら、被災前の様子や被災の状況、現在の復興の状況についてお伝えしている。

◇コースと内容

参加する方の要望や時間を考慮しながら、柔軟にコースを選定し、少しでも多くの場所を見て頂けるよう配慮している。



戸倉～志津川コース



志津川～歌津 コース

◇参加者の感想(一部)

- ・震災時の状況や、まだまだ現在も復興途中であることがわかり、胸を打たれた。
- ・震災を思い出し、語ることは辛いと思いますが、とてもわかりやすく被災時の出来事や今の現状が知れて貴重な経験でした。
- ・津波の恐ろしさを改めて知る事ができた。地元に戻って自分たちの地域の防災に役立てたい。
- ・場所の解説だけでなく、当時のエピソードが印象に残っている。
- ・一人でも多くの人にこの語り部を聞いてほしい。
- ・震災前の状況が現在の風景を見ただけではイメージしづらいので、話を聞いて良かった。



紙芝居・講演活動

津波の経験を伝える様々な方法の1つとして、被災経験をつづった紙芝居「ぼくのふるさと」を手作りし、様々な場所で披露している。



全国各地で講演を行い、被災体験や復興の状況を伝え、防災対策やさらなる復興への関心呼びかける活動を継続的に行っている。



◇語り部内容の記録

語り部の内容は、話し手の経験や状況、聞き手の様子や時期、コースによって、変化する。2013年度に実施された3名の語り部活動を、録音し、記録として作成した。

◇これから

被災当時の被害状況を伝える風景がほとんどなくなる中で、多くの人に津波の恐ろしさを伝えていくため、伝え方を工夫しながら、多くの人に南三陸の状況を伝える活動を続けていく。